

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」
- 2 ね ら い これからボランティア活動をはじめの方々を対象に、ボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎知識や技能を習得させる。
- 3 期 日 令和7年5月10日（土）、17日（土）18日（日） 3日間
- 4 場 所 10日：沖縄県立糸満青少年の家 17日、18日：国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 25名程度
- 6 参加人数 10名
- 7 参加者内訳 高校生2名 大学生7名 社会人1名
- 8 講 師 張本 文昭 氏(沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授)
木島 悠太郎 氏(一般社団法人 沖縄ライフセービング協会)
山里 望 氏(国立沖縄青少年交流の家 所長)
森根 蓮乃 氏、神谷 楓 氏(法人ボランティア)
棚原 信(国立沖縄青少年交流の家 企画指導専門職)

9 実施プログラム

5月10日	潮汐:大潮 満潮 6:02(190cm) 干潮12:36(28cm)										
	12:00 13:00 14:40 15:40 17:30										
		受付	開校式	講義①	講義②	講義③	事務連絡				
5月17日	潮汐:中潮 満潮 8:38(187cm) 干潮15:43(28cm)										
	10:00 11:45 13:00 13:30 16:00 18:00 19:30 21:00										
	9:00から乗船開始 (とまりんターミナル)	フェリー	移動	弁当 着替え	テント 設営	海洋研修	シャワー	野外炊事	夕食 片付	交流会	就寝 準備
5月18日	潮汐:中潮 満潮9:19(180cm) 干潮16:34(39cm)										
	7:30 8:30 11:30 12:30 14:00 15:00 16:00										
	起床 テント底上げ	朝食 テント撤収	講義・演習④	弁当	講義⑤	講義⑥	閉校式	移動	フェリー	(講義内容) 講義① 青少年教育 講義② 青少年教育施設の現状と運営 講義③ 青少年施設におけるボランティア① 講義④ 安全管理 講義⑤ ボランティア活動の意義 講義⑥ 青少年施設におけるボランティア②	

10 事業の様子



青少年教育



研修の様子



野外炊事



テント設営



海洋研修①



安全管理



アイスブレイク研修



海洋研修②



修了式

11 参加者の声（アンケートより）

- ・自分達で考えて行動することが多かったので、協力して行動することができた。
- ・テント泊や野外炊事などを経験することができて良かった。
- ・講義だけでなく屋外での観察を通して見たり、触れたりできて楽しかった。（青少年教育）
- ・スノーケルが初めてだったけど楽しかった。もっと沖縄の自然を感じたい。（ボランティアの技術）
- ・渡嘉敷の海がとてもきれいで感動した。
- ・アイスブレイクはとても楽しく、リラックスして研修することができた。
- ・先輩の体験を聞くことでボランティアへの関心が高まった。（青少年教育施設におけるボランティア）
- ・人の命を救うための知識を学ぶことができてよかった。（安全管理）
- ・様々な子どもたちへの対応について理解が深まった。（ボランティアの意義）
- ・沖縄の現状を学んだことでボランティアへの関心が高まった。（青少年教育施設の現状と課題）

12 担当者所見

（1）成果

- ・主に大学生一般の方を対象に募集を行った。今後も引き続きランティア活動の活性化につなげたい。
- ・3日間の開催とすることで、カリキュラムに余裕ができ、ボランティア同士や職員との交流の時間を生み出すことができた。
- ・先輩ボランティアが講師として参加していたため、参加者がボランティアの活動内容や役割をイメージしやすかったように感じた。
- ・意欲的な参加者が多く、今後のボランティア活動につなげていきたい。

（2）課題

- ・3日間開催としたことで、体調を崩し、参加を見送る参加者がいた。
- ・事業の支援、サポートだけでなく、自主企画を想定した運営に関わる場面を設定し、経験を積ませていく必要がある。
- ・事業への参加だけでなく、草刈り作業等の施設整備に協力を依頼する機会を計画したい。
- ・学生が多忙化しており、参加の時期や方法について検討が必要。